

+.....+

【ケアプロ通信 vol.56】

6 月度ニュース:「日本看護サミット 2017」で、代表川添が登壇しました

+.....+

いつも大変お世話になっております。

先週、6月21日は『夏至』でした。

『夏至』は、昼間が一番長い日です。

最近、定時に退社した日に、空が明るく陽が長くなったような気がしていました。

これからまた暑い夏がやってくるんだと季節の変わり目を感じています。

季節の変わり目、体調を崩しやすいとも言われていますが、

みなさまはお変わりございませんか？

私たちは、みなさまの健康を応援するために、

私たち自身も、心身共に健康を保ちたいと思っています。

ケアプロのスタッフにも、健康診断の時期がやってまいりました。

日々、健康に過ごすためには、自分の体を知り、予防をすることがとても大切です。

6 月度のニュースをお届けいたします。



+.....INDEX.....+

【1】代表 川添高志 ～日本看護サミット～

【2】 予防医療事業部

1) 薬局向け“出張”検体測定室を開始

2) 今月の導入事例 ご紹介

【3】 在宅医療事業部

1) 災害訓練の実施

+.....+

+……………代表 川添高志からのメッセージ……………+

「日本看護サミット2017」に登壇しました。

看護師の基礎教育がテーマでした。

政府や看護業界だけで話を進めやすいですが、
”看護師を目指す学生”や”看護を利用する市民”が
何を求めているのか、を代弁するつもりで登壇しました。

そのため、私からは、下記を提言。

- 1)在宅医療の教育を充実
- 2)看護師になるための教育を全て4年制化

驚いたのは、後日、とある都道府県の方から、
「議員への要望書の参考資料に使いたい」
「サミットの発表資料を送ってほしい」という連絡があったことです。

ケアプロの在宅医療事業部のミッションを達成していく上でも
教育や供給に関する政策は大きな影響を与えるため、
今後も政策動向をフォローしていきます。

※サミット発表資料(一部修正)

<http://bit.ly/2s4KR4f>



1) 薬局向け“出張”検体測定室を開始

既にプレスリリースやメディアの記事でご存知の方も多いかも知れませんが、「スマートヘルスケア協会」様と業務提携をしまして、薬局向け“出張”検体測定室を正式に発表させて頂きました。

※プレスリリースはこちら

http://carepro.co.jp/about/press_20170607.pdf

健康サポート薬局取得のための「地域活動」の一環としても、本取り組みが広がっていけばと思っています。

2) 今月の導入事例 ご紹介

今月の出張イベントの導入事例は、「たまふれあいクリニック」様です。たまふれあいクリニック様は川崎多摩区周辺で訪問診療や訪問看護事業を展開されております。

今回地域の皆様との交流を目的に集会所などを活用し、定期的なイベントをしたいということでご依頼いただきました。たくさんの高齢者の方に喜んで頂けるイベントとなりました。

※詳しくはこちら

<http://carepro.co.jp/onecoin/corporation/archives/tama-fureai-clinic-kawasaki/>

継続した取り組みで、地域住民の皆様が安心して暮らせる街づくりを支援していきたいと思っております。



+……………在宅医療事業部長 前田和哉からのメッセージ……………+

1)ケアプロ訪問看護ステーション東京 防災訓練実施！！

ケアプロ訪問看護ステーション東京は、[※]D-MAT のメンバーや、災害看護専門看護師など災害に強いナースを多数有しています。いつ起こるか分からない災害に備え、マニュアル作り、スタッフ教育、訓練を実施しています。

先日は災害マニュアルを策定した際、スタッフ全員に周知するため、3回にわたる災害についてのレクチャーを開催。

しかし災害の対策は、耳で聞くだけではわからないことが多いもの。加えて今回は、地震発生を想定した安否確認の訓練を行いました。



安否確認訓練では、災害本部長・指揮者の役割を指名し、指示命令系統の確立、安否の情報を時系列に記載しながら、一人ひとりの状況を報告。

実際にやってみると、スムーズに行かないことが多くあり、貴重な収穫の多い訓練になりました。実際に実施してみて、この時はどうするのだろう、などと疑問に思いながら、ディスカッションしつつどんな災害が起こるか分からない中で備えをしていくことが大切だと思いました。

今後は、災害訓練の継続、利用者の方々への災害前看護の実践など積極的に災害対策を行っていきたいと思います！



※DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持った トレーニングを受けた医療チーム」と定義されており(平成13年度厚生科学特別研究「日本における災害時派遣医療チーム(DMAT)の標準化に関する研究」報告書より)災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって略して DMAT(ディマット)と呼ばれています。